

リハビリテーション医学		講義	教授 澁谷 正史 准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12321304

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師として職業倫理を身につけ、患者の病態等を正しく理解・管理するために、リハビリテーションに関わる診断・評価（検査・測定）・治療・予後に必要となる基本的知識を修得する。また地域医療に関わる一員としての技能と態度を身につけることを授業のねらいと考えている。さらに高齢化医療や在宅医療におけるリハビリテーションの役割も併せて理解できるようにしていく。

2. 授業の進め方

リハビリテーション医学改訂4版の内容に沿った講義形式を基本とする。毎回の講義ではpower pointを用いたスライドによる授業を行い、分かりにくい、もしくは理解しにくい箇所は、画像および動画などを用いて説明する。

3. 授業計画

1. リハビリテーションの理念	9. 高齢者のリハビリテーション①（フレイル、認知症）
2. リハビリテーションの対象と障害者の実態	10. 高齢者のリハビリテーション②（変形性関節症）
3. 障害の階層とアプローチ（ICD, ICDH, ICFの違い）	11. 運動器のリハビリテーション①（骨折の治療）
4. リハビリテーション評価学①（機能解剖、身体所見）	12. 運動器のリハビリテーション②（頸肩腕症候群）
5. リハビリテーション評価学②（画像診断、小児運動発達）	13. 運動器のリハビリテーション③（腰痛症）
6. リハビリテーション障害学	14. 運動器のリハビリテーション④（捻挫およびアキレス腱断裂）
7. リハビリテーション治療学	15. 障害者スポーツと前期のまとめ
8. リハビリテーション医学の関連職種と治療技術	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容をテキストや配布資料を用いて予習し、疑問点などを明確にしておく。
この準備学修には1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後もしくは授業内で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- ①リハビリテーション医学の用語を覚え、使用できるようになる。
- ②神経系による運動器のコントロールについて理解し、患者（場合によってはアスリート）に説明できるようになる。
- ③リハビリテーション医学の対象となる各疾患の評価、診断法について学習し、実施できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験を実施し評価する（100%）。

8. テキスト・参考文献

リハビリテーション医学 改訂第4版、全校柔道整復学校協会監修、南江堂

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートホンの使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。